

## 第 158 期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類：連結持分変動計算書	… P. 1
連結計算書類：連結注記表	… P. 2 ～ 9
計算書類：株主資本等変動計算書	… P. 10 ～ 11
計算書類：個別注記表	… P. 12 ～ 16

(2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日まで)

### 日本精工株式会社

第158期定時株主総会招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結計算書類の「連結持分変動計算書」及び「連結注記表」、並びに、計算書類の「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」につきましては、法令及び定款第15条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載されることにより株主の皆様提供しています。

連結計算書類：連結持分変動計算書

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式
期首残高	67,176	80,264	362,859	△17,815
当期利益	—	—	55,809	—
その他の包括利益	—	—	—	—
当期包括利益合計	—	—	55,809	—
自己株式の取得	—	—	—	△20,053
自己株式の処分	—	21	—	89
株式報酬取引	—	375	—	—
剰余金の配当	—	—	△21,514	—
子会社に対する所有者持分の変動	—	△235	—	—
その他	—	—	3,565	—
所有者との取引額等合計	—	161	△17,948	△19,963
期末残高	67,176	80,426	400,720	△37,779

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	その他の資本の構成要素				合計	合計		
	在外営業活動体の換算差額	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	確定給付負債(資産)の純額の再測定	合計				
期首残高	△7,774	43,584	8,880	44,689	537,175	23,839	561,014	
当期利益	—	—	—	—	55,809	2,928	58,738	
その他の包括利益	△4,823	△6,537	△3,645	△15,006	△15,006	62	△14,944	
当期包括利益合計	△4,823	△6,537	△3,645	△15,006	40,803	2,991	43,794	
自己株式の取得	—	—	—	—	△20,053	—	△20,053	
自己株式の処分	—	—	—	—	111	—	111	
株式報酬取引	—	—	—	—	375	—	375	
剰余金の配当	—	—	—	—	△21,514	△2,816	△24,330	
子会社に対する所有者持分の変動	—	—	—	—	△235	△290	△525	
その他	—	△3,551	—	△3,551	14	—	14	
所有者との取引額等合計	—	△3,551	—	△3,551	△41,302	△3,106	△44,408	
期末残高	△12,598	33,494	5,234	26,131	536,676	23,724	560,400	

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結計算書類：連結注記表

### 【連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等】

#### 1. 連結計算書類の作成基準

当社グループの連結計算書類は、会社計算規則第120条第1項の規定により、国際会計基準(以下「IFRS」という。)に準拠して作成しています。なお、連結計算書類は同項後段の規定により、IFRSで求められる開示項目の一部を省略しています。

#### 2. 連結の範囲に関する事項

##### (1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数は88社です。

主要な連結子会社の名称：

NSKステアリングシステムズ㈱、(株)天辻鋼球製作所、  
NSKアメリカズ社、NSKブラジル社、NSKヨーロッパ社、  
NSK中国社、NSK昆山社、NSKベアリング・インドネシア社、NSK韓国社

##### (2) 持分法を適用した関連会社の数及び主要な関連会社の名称

持分法を適用した関連会社の数は16社です。

主要な関連会社の名称：NSKワーナー㈱

##### (3) 連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結子会社

新規設立による増加 : 1社 AKSプレジジョンボール・メキシコ社  
吸収合併による減少 : 3社 NSKベアリング・マニュファクチュアリング・インド社、  
NSK八木張家港社、NSKオーバーシーズ・ホールディングス㈱

持分法適用会社

清算結了による減少 : 1社 NSKワーナー・USA社

#### 3. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ① 売上債権及びその他の債権

売上債権及びその他の債権は発生日に認識し、当初認識時には公正価値で計上します。当初認識後は実効金利法による償却原価で測定し、減損に対する貸倒引当金を控除しています。

貸倒引当金の変動は、純損益として認識しています。

###### ② その他の金融資産

投資有価証券等の「公正価値で測定される金融資産」は、約定日で認識し、売買目的で保有される株式等の資本金性金融資産及びデリバティブ資産を除いて、「その他の包括利益」を通じて公正価値で測定するか「純損益」を通じて公正価値で測定するかを指定し、継続的に適用しています。

報告期末においては、測定分類された金融資産のうち、その他の包括利益を通じて公正価値で測定すると指定したものについては、公正価値の変動額を「その他の包括利益」として認識しており、純損益を通じて公正価値で測定すると指定したものについては「純損益」として認識しています。なお、当該資産からの配当金については、金融収益として認識しています。

契約期間終了や売却により、金融資産からのキャッシュ・フローを受領する権利が消滅する場合や、キャッシュ・フローを受取る契約上の権利を譲渡し、当該金融資産の所有に係るリスクと経済価値が実質的に移転する場合に、金融資産の認識を中止しています。

### ③ 棚卸資産

棚卸資産は取得原価と正味実現可能価額のいずれか低い価額により測定しており、原価は、原材料費、直接労務費、その他の直接費及び関連する製造間接費の適切な配賦額から構成されています。正味実現可能価額は、予想売価から、販売に要する見積費用を控除して算定しています。

商品、製品、仕掛品、原材料の原価は加重平均法により、貯蔵品の原価は先入先出法により算定しています。

### (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

#### 有形固定資産

定額法で減価償却を行っています。

### (3) 重要な引当金の計上基準

引当金は、過去の事象の結果として、現在の法的、又は推定的債務を有しており、当該債務の決済が必要となる可能性が高く、その債務の金額を信頼性のある見積りができる場合に認識しています。

引当金は、報告期間の末日における債務について、決済に要すると見積られた支出額の現在価値で測定しています。また、現在価値は、貨幣の時間的価値及び当該負債に固有のリスクを反映した割引率で算定しています。

### (4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び、当社グループ会社は、確定給付制度、及び確定拠出制度を有しています。

#### ① 確定給付制度

従業員が過年度及び当年度において提供したサービスの対価として獲得した将来給付額を見積り、当該金額を現在価値に割引いた額から制度資産の公正価値を差し引き、純額を資産又は負債で認識しています。確定給付制度債務の現在価値及び退職給付費用は、予測単位積増方式により算定しており、割引率は会計年度末における優良社債の市場利回りを参照して決定しています。

勤務費用、過去勤務費用及び確定給付負債(資産)の純額に係る利息費用は純損益として認識しています。数理計算上の差異、利息費用に含まれる部分を除く制度資産に係る収益及び資産上限額の影響の変動については、それらが生じた期間において「確定給付負債(資産)の純額の再測定」としてその他の包括利益として認識しています。

#### ② 確定拠出制度

確定拠出制度に係る費用は、従業員がサービスを提供した期間に費用として認識しています。

### (5) 収益認識

当社グループは、当連結会計年度よりIFRS第15号を適用しており、IFRS第9号「金融商品」に基づく利息及び配当収益等を除き、顧客との契約について以下の5ステップを適用することにより収益を認識しています。

ステップ1：顧客との契約を識別する

ステップ2：契約における履行義務を識別する

ステップ3：取引価格を算定する

ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する

ステップ5：企業が履行義務の充足時に収益を認識する

当社グループは、一般産業向けの軸受、精密機器関連製品、自動車及び自動車部品メーカー向けの軸受、ステアリング及び自動変速機用部品等の製造・販売を行っています。このような物品販売による収益は、物品の引渡時点において顧客が当該物品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断しており、当該物品の引渡時点で収益を認識しています。また、収益は顧客との契約において約束された対価から、値引き、リベート及び返品などを控除した金額で測定しています。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

① 外貨建取引

外貨建取引は、取引日の直物為替レート又はそれに近似するレートを用いて機能通貨に換算しています。

期末における外貨建貨幣性資産及び負債はすべて期末日の直物為替レートを用いて機能通貨に再換算し、その結果生ずる差額を純損益として認識しています。

② 在外営業活動体の財務諸表

在外営業活動体の資産及び負債は、期末日の直物為替レート、収益及び費用は、期中の平均為替レートを用いて日本円に換算しています。

在外営業活動体の財務諸表の換算から生じる為替換算差額は、その他の包括利益で認識しています。在外営業活動体を処分する場合、当該在外営業活動体に関連する為替換算差額の累計額は、処分時に純損益として認識しています。

## 【会計方針の変更に関する注記】

当社グループが当連結会計年度より適用している基準及び解釈指針は以下のとおりです。

基準書	基準名	新設・改訂の概要
IFRS第15号	顧客との契約から生じる収益	収益認識に関する会計処理及び開示の改訂

当社グループは、IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」（2014年5月公表）及び「IFRS第15号の明確化」（2016年4月公表）（併せて以下「IFRS第15号」という。）を当連結会計年度から適用しています。IFRS第15号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しています。

IFRS第15号の適用に伴い、IFRS第9号「金融商品」に基づく利息及び配当収益等を除き、顧客との契約について以下の5ステップを適用することにより収益を認識しています。

- ステップ1：顧客との契約を識別する
- ステップ2：契約における履行義務を識別する
- ステップ3：取引価格を算定する
- ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する
- ステップ5：企業が履行義務の充足時に収益を認識する

当社グループは、一般産業向けの軸受、精密機器関連製品、自動車及び自動車部品メーカー向けの軸受、ステアリング及び自動変速機用部品等の製造・販売を行っています。このような物品販売による収益は、物品の引渡時点において顧客が当該物品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断しており、当該物品の引渡時点で収益を認識しています。また、収益は顧客との契約において約束された対価から、値引き、リベート及び返品などを控除した金額で測定しています。

IFRS第15号の適用が当社グループの連結計算書類に与える影響は軽微です。

## 【連結財政状態計算書に関する注記】

1. 有形固定資産の減価償却累計額 762,833百万円
2. 保証債務 0百万円  
内、従業員の財形貸付融資に対する債務保証 (0百万円)
3. 引当金  
引当金の残高内訳は以下の通りです。  
環境対策引当金 1,233百万円  
その他 7,529百万円

### 環境対策引当金

建物及び設備等に使用されているアスベスト及びポリ塩化ビフェニル(PCB)等の除去、処分に関する支出に備えるため、今後発生すると見込まれる費用を計上しています。

経済的便益の流出が予測される時期は、主に当連結会計年度末日より1年を経過した後の時期であると見込んでいます。

### その他

その他には、独占禁止法関連費用の引当金が含まれています。

## 4. 訴訟事項等

当社及び当社の一部子会社は、過去における製品の取引に関して競争法違反の疑いがあるとして海外の関係当局による調査等を受けており、当社グループは、これに対して全面的に協力しています。

また、当社並びに当社の日本、米国、カナダ及び欧州の一部子会社は、米国及びカナダにおいて、他の被告らと

ともに、原告である軸受製品等の購入者の代表者等から、複数の集団訴訟の提起を受けています。原告は、被告らが共謀して、これらの国において軸受製品等の取引に関する競争を制限した等と主張し、被告らに対して損害賠償、対象行為の差止めをはじめとする請求を行っています。

米国においては、軸受製品について、直接購入者(例えば、自動車メーカー及び産業機械メーカー)の各暫定原告団から、当社並びに当社の米国及び欧州の一部子会社に対して、複数の集団訴訟が提起されています。これらの訴訟は、ミシガン州東部連邦裁判所に係属しています。これらの訴訟の一部については、ディスカバリー(訴訟当事者間で相互に訴訟に関係し得る書類等の証拠の開示を求める手続)が開始されています。また、これらの訴訟の一部については、集団適格に関する申立てが行われていましたが、2019年1月7日(現地時間)、同裁判所は当該申立てを退ける決定を下しました。当該決定については、原告から控訴されていましたが、2019年4月1日(現地時間)、第6巡回区控訴裁判所は当該控訴を退ける決定を下しました。なお、当該訴訟は引き続きミシガン州東部連邦裁判所に係属しており、今後改めて集団適格に関する申立てが行われる可能性があります。

カナダにおいては、オンタリオ州、ケベック州、ブリティッシュ・コロンビア州及びサスカチュワン州において、軸受製品その他の当社製品について、直接購入者(例えば、自動車メーカー)及び間接購入者(例えば、カーディーラー及び車両の最終購入者)からなる暫定原告団から、当社並びに当社の日本、米国、カナダ及び欧州の一部子会社に対して、複数の集団訴訟が提起されています。これらの訴訟の一部については、集団適格に関する決定がなされています。

なお、過去における製品の取引に関する競争法違反の疑いに関連して、当社は当連結会計年度末において、合理的に見積もられた、今後発生し得る和解に関連する損失を「引当金(非流動)」に計上しています。これら引当金を計上した訴訟等のほか、当社又は当社の子会社若しくは関係会社は、上記訴訟と同種又は類似の訴訟等を今後提起される可能性があります。当社グループとしましては、原告等による請求に対して、適切に対処していきます。また、当社グループは、上記訴訟等の状況に応じて、原告等との間で個別に和解の可能性も検討していきます。

#### 【連結持分変動計算書に関する注記】

1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数 普通株式 551,268,104株

#### 2. 配当に関する事項

##### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月25日 取締役会	普通株式	11,155	21.00	2018年3月31日	2018年6月1日
2018年10月29日 取締役会	普通株式	10,446	20.00	2018年9月30日	2018年12月3日
計		21,601			

(注1) 配当金の総額には、株式給付信託の信託口が所有する自社の株式に対する配当金87百万円が含まれています。

##### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2019年5月21日開催の取締役会の議案として、剰余金の処分として期末配当に関する事項を次のとおり付議します。

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 配当金の総額   | 10,290百万円  |
| ② 配当の原資    | 利益剰余金      |
| ③ 1株当たり配当額 | 20.00円     |
| ④ 基準日      | 2019年3月31日 |
| ⑤ 効力発生日    | 2019年6月6日  |

(注) 2019年5月21日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託の信託口が所有する自社の株式に対する配当金41百万円が含まれています。

3. 当連結会計年度末の新株予約権(権利行使期間の初日が到来していないものを除く)の目的となる株式の種類及び数

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数
当社	2014年ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	618,000株
	2015年ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	788,000株



## 【金融商品に関する注記】

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### 財務リスク管理

当社グループは事業活動を行う過程において、財務上のリスク(市場リスク、信用リスク、流動性リスク)に晒されています。当社グループはこれらのリスクへ対応する為、一定の方針に基づきリスク管理を行っています。

#### (1) 市場リスク

##### ① 外国為替リスク

当社グループは、国際的に事業活動を行っており、様々な通貨、主に米ドル及びユーロに関して生じる為替変動リスクに晒されています。外国為替リスクは、認識されている外貨建資産及び負債から発生しています。

当社グループ各社は、為替変動リスクに対応するため、外貨建債権債務の均衡を図り、社内規定に従い必要に応じ先物為替予約によるリスクヘッジを行っています。

##### ② 金利リスク

当社グループの借入金のうち一部は変動金利による借入金であり、金利変動リスクに晒されています。社内規定に従い必要に応じデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジします。

##### ③ 価格リスク

当社グループは、主に業務上の関係を有する企業の株式等を保有しており、資本性金融商品の株価変動リスクに晒されています。株式等については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、取引先及び取引金融機関との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しています。

#### (2) 信用リスク

売上債権は、顧客の信用リスクに晒されています。当社グループは、取引先ごとに債権期日管理及び残高管理等を行っており、取引先が契約上の債務に関して債務不履行となるリスクの早期把握、軽減を図っています。

当連結会計年度末における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の連結財政状態計算書価額により表されています。

また、当社グループは、回収期日を経過した売上債権をリスクの高いものと考え、取引先をモニタリング管理しています。

なお、金融資産に対して担保として保有する重要な資産及びその他の信用補完をするものではありません。

#### (3) 流動性リスク

当社グループは、十分なキャッシュが得られずに、金融負債の支払義務の履行が困難となる流動性リスクに晒されています。当社グループは、各部署及び主要な連結子会社からの報告に基づき適時資金計画を作成・更新するとともに、手許流動性を一定水準に維持すること等により、流動性リスクを管理しています。当社グループは、営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力に加えて、金融機関との150億円のコミットメントラインの設定や、500億円の商業ペーパー発行枠などを確保しており、このようなリスクは少ないと考えています。

## 2. 金融商品の公正価値等に関する事項

当連結会計年度末における金融資産・負債の帳簿価額及び公正価値は次のとおりです。

(単位：百万円)

	帳簿価額	公正価値
金融資産		
売上債権及びその他の債権	195,288	195,288
投資有価証券	71,396	71,396
デリバティブ金融資産	22	22
金融負債		
仕入債務及びその他の債務	130,333	130,333
短期借入金	58,637	58,637
長期借入金	96,142	98,109
社債	120,000	121,167
リース債務	1,754	1,754
デリバティブ金融負債	77	77

売上債権及びその他の債権、仕入債務及びその他の債務、短期借入金、リース債務につきましては、主に短期間で決済されるため公正価値は帳簿価額と同額としています。

投資有価証券のうち、活発な市場がある上場株式の公正価値は、取引所の価格により算定しています。活発な市場がない非上場株式等の公正価値は、主として株価純資産倍率によるマルチプル方式により算定しています。また、当連結会計年度の非上場株式の公正価値測定に用いている観察不能なインプットである非流動性ディスカウントは30%としています。

純損益を通じて公正価値で測定されるデリバティブ金融資産及び金融負債のうち、為替予約については、同取引を約定した金融機関から提示された評価額によっています。

長期借入金の公正価値については、元利金の合計額を、当該長期借入金の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しています。但し、変動金利による長期借入金については、金利が一定期間毎に更改される条件となっており、公正価値は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっています。

当社の発行する社債の公正価値は、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しています。

### 【1株当たり情報に関する注記】

1株当たり親会社所有者帰属持分	1,048円18銭
基本的1株当たり当期利益	107円46銭

計算書類：株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計
当期首残高	67,176	77,923	1,125	79,049
当期変動額				
剰余金の配当	—	—	—	—
積立金の積立	—	—	—	—
積立金の取崩	—	—	—	—
当期純利益	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	14	14
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	14	14
当期末残高	67,176	77,923	1,140	79,064

	株主資本				
	利益剰余金				
	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
固定資産 圧縮積立金		別途積立金	繰越 利益剰余金		
当期首残高	10,292	3,975	64,766	38,422	117,456
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	—	△21,601	△21,601
積立金の積立	—	—	15,000	△15,000	—
積立金の取崩	—	△140	—	140	—
当期純利益	—	—	—	28,284	28,284
自己株式の取得	—	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	△140	15,000	△8,176	6,682
当期末残高	10,292	3,834	79,766	30,246	124,139

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△17,687	245,995	35,859	35,859	695	282,549
当期変動額						
剰余金の配当	—	△21,601	—	—	—	△21,601
積立金の積立	—	—	—	—	—	—
積立金の取崩	—	—	—	—	—	—
当期純利益	—	28,284	—	—	—	28,284
自己株式の取得	△20,042	△20,042	—	—	—	△20,042
自己株式の処分	94	108	—	—	—	108
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	—	—	△7,063	△7,063	△14	△7,077
当期変動額合計	△19,948	△13,250	△7,063	△7,063	△14	△20,328
当期末残高	△37,635	232,744	28,795	28,795	681	262,221

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 計算書類：個別注記表

### 【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式は移動平均法による原価法です。その他有価証券は、時価のあるものについては期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)、時価のないものについては移動平均法による原価法です。

#### 2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

製品、原材料及び仕掛品は総平均法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)です。

貯蔵品は先入先出法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)です。

#### 3. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)及び無形固定資産(リース資産を除く)は定額法です。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

#### 4. 繰延資産の処理方法

支出時に全額償却しています。

#### 5. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

期末の金銭債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、また貸倒懸念債権等特定の債権については回収可能性を勘案して個別に貸倒見積額を計上しています。

##### (2) 退職給付引当金

従業員への退職給付に備えるため、期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき退職給付引当金または前払年金費用を計上しています。

##### (3) 役員株式給付引当金

当社の取締役及び執行役に対する当社株式等の給付に備えるため、期末における株式給付債務の見込額に基づき計上しています。

##### (4) 従業員株式給付引当金

当社及び一部子会社の一部役員に対する当社株式等の給付に備えるため、期末における株式給付債務の見込額に基づき計上しています。

##### (5) 環境対策引当金

建物及び設備等に使用されているアスベスト及びポリ塩化ビフェニル(PCB)の除去、処分に関する支出に備えるため、今後発生すると見込まれる費用を計上しています。

#### 6. 消費税等の会計処理

税抜方式です。

### 【表示方法の変更に関する注記】

#### 1. 貸借対照表関係

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しています。

## 2. 損益計算書関係

前事業年度において区分掲記していました特別損失の独占禁止法関連損失は重要性が乏しくなったため、当事業年度より営業外費用の雑損に含めています。

### 【会計方針の変更に関する注記】

該当事項はありません。

【貸借対照表に関する注記】

1. 有形固定資産の減価償却累計額	332,911百万円
2. 保証債務	0百万円
内、当社従業員の財形貸付融資に対する債務保証	(0百万円)
3. 関係会社に対する金銭債権及び債務	
短期金銭債権	52,082百万円
長期金銭債権	1,206百万円
短期金銭債務	87,359百万円
長期金銭債務	227百万円

【損益計算書に関する注記】

1. 関係会社との取引高		
営業取引	売上高	125,978百万円
	仕入高	212,393百万円
	営業取引以外の取引高	68,570百万円

2. 減損損失

(単位：百万円)

用途	種類	場所	内容	金額
事業用資産	建物	群馬県前橋市	自動車事業用関連施設	738

主たる資金生成単位でグルーピングをし、収益性が低下している事業用資産につき、帳簿価額を不動産鑑定評価額等から処分費用見込額を控除して算定した正味売却価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しています。

【株主資本等変動計算書に関する注記】

当期末における自己株式の種類及び株式数	普通株式	38,804,892株
---------------------	------	-------------

【税効果会計に関する注記】

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の内訳

繰延税金資産

退職給付引当金	5,852百万円
未払賞与	3,385百万円
関係会社株式評価損	24,242百万円
投資有価証券評価損	475百万円
減損損失	225百万円
その他	6,112百万円
繰延税金資産小計	40,293百万円
評価性引当額	△25,175百万円
繰延税金資産合計	15,118百万円

繰延税金負債

固定資産圧縮積立金	△1,683百万円
退職給付信託設定益	△9,800百万円
その他有価証券評価差額金	△12,022百万円
その他	△320百万円
繰延税金負債合計	△23,826百万円

繰延税金資産(負債)の純額	△8,707百万円
---------------	-----------

【リースにより使用する固定資産に関する注記】

貸借対照表に計上した固定資産のほか、電子計算機及びその周辺装置等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しています。

【関連当事者との取引に関する注記】

子会社等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	NSKステアリングシステムズ(株)	100.0	製品の購入 役員の兼任	自動車関連製品の購入(注1) 資金の借入(注2)	58,063 1,692	買掛金 短期借入金	7,494 7,798
子会社	(株)天辻鋼球製作所	100.0	製品の購入 役員の兼任	資金の借入(注2)	9,500	短期借入金	26,319
関連会社	NSKワナー(株)	50.0	製品の購入 役員の兼任	自動車関連製品の購入(注1)	62,320	買掛金	12,533

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 製品の購入の条件については、同社の総原価を勘案し、価格交渉のうえ決定しています。

(注2) 資金の借入については、市場金利を勘案し合理的に利率を決定しています。

(注3) 上記金額の内、取引金額には消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含めて表示しています。

【1株当たり情報に関する注記】

1株当たり純資産額	510円36銭
1株当たり当期純利益	54円41銭

【連結配当規制適用会社に関する注記】

当社は連結配当規制の適用会社です。

【企業結合に関する注記】

共通支配下の取引等

当社のインド子会社であるNSK INDIA SALES COMPANY PRIVATE LIMITEDは2018年6月1日、同社を吸収合併存続会社、当社の100%子会社であるNSK BEARINGS MANUFACTURING INDIA PRIVATE LIMITEDを吸収合併消滅会社とする子会社間の吸収合併(以下、「本吸収合併」)を実施しました。

(1) 本吸収合併の要旨

① 合併当事会社の概要

合併当事会社の名称	NSK BEARINGS MANUFACTURING INDIA PRIVATE LIMITED
事業の内容	自動車軸受の製造・販売

② 合併日(効力発生日) 2018年6月1日

③ 本吸収合併の方式

NSK INDIA SALES COMPANY PRIVATE LIMITEDを吸収合併存続会社、NSK BEARINGS MANUFACTURING INDIA PRIVATE LIMITEDを吸収合併消滅会社とする吸収合併です。

④ 結合後会社の名称

NSK INDIA SALES COMPANY PRIVATE LIMITED

なお、2018年7月28日をもってNSK INDIA SALES COMPANY PRIVATE LIMITEDはNSK BEARINGS INDIA PRIVATE LIMITEDに社名変更しました。



当社は、2018年12月6日における代表執行役による決定に基づき、当社を吸収合併存続会社、当社の100%子会社であるNSKオーバーシーズ・ホールディングス株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併(以下「本吸収合併」)を2019年3月1日に実施しました。

(1) 本吸収合併の要旨

① 合併当事会社の概要

合併当事会社の名称	NSKオーバーシーズ・ホールディングス株式会社
事業の内容	国内外主要会社の経営管理・統括

② 合併日(効力発生日) 2019年3月1日

③ 本吸収合併の方式

当社を吸収合併存続会社、NSKオーバーシーズ・ホールディングス株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併です。

④ 結合後会社の名称

日本精工株式会社